

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 多摩市立西落合小学校（※正式名称を記載）

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫 _____）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒206-0033

東京都多摩市落合5丁目6番地

E-mail _____

Website <http://schit.net/tama/esnishiochiai/>

幼児児童生徒数 男子 242名 女子 206名 合計 448名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～11歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

（1）活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応○○○

当校は、学校の教育目標の一つである「助け合う子」の育成を本年度の重点的な活動テーマ（教育活動の重点目標）として、ESDを目指す児童像に迫る効果的な方法の一つと捉え、各教科・領域におけるESDの実践を通して課題発見・解決能力やコミュニケーション能力の育成を目標とした。

具体的には、生活科や総合的な学習の時間の授業改善・工夫を柱に、①多面的・総合的に考える力を高めることにつながる学習、②コミュニケーションを行う力を高めることにつながる学習、③他者と協力する態度を一層養うことにつながる学習を行った。

① 多面的・総合的に考える力を高めることにつながる学習

全学年で実施しているが、本報告書では、特に第2学年で実施した「動くおもちゃづくり」について報告する。より早く動く、より遠くまで動く、よりスムーズに動く等の課題意識を児童一人一人にもたせ、その課題を解決するための見通しをたてさせるとともに実験（試行錯誤）を行わせた。

試行錯誤は、個人で取り組む場面と小グループで意見交換をしながら取り組む場面の二つを設定した。

②コミュニケーションを行う力を高めることにつながる学習

全学年で実施しているが、本報告書では、特に第4学年で実施した「地域安全マップづくり」について報告する。お年寄りには、大きな声でゆっくりと、園児等小さな子どもには、園児にも理解できる平易な言葉を使う等、相手に応じて、ふさわしいコミュニケーションの方法をとらなければならない場の設定を行った。

③他者と協力を一層養うことにつながる学習

全学年で実施しているが、本報告書では、特に第4学年で実施した「地域安全マップづくり」について報告する。児童各自が収集した情報をグループで共有し、情報の取捨選択を行ってマップにまとめる作業を行った。



① 1年生
「きれいに咲いてね
わたしのはな」
観察したことをグループで見
合い、感想を交流している。

② 4年生
「安全マップをつくろう」
フィールドワークで調査した
ことをグループで話し合い地
図に書き込んでいる。



③ 5年生
「考えよう、
わたしたちにできること」
他国の米作りや食料事情を調
べた意味、発表の流れを確認し
ている。

④ 6年生
「日本や外国について
しらべよう」
調べたことをベン図に整理し、
そこから分かったことを伝え、
交流している。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

書籍 食や文化等に関するもの
ウェブサイト 各国の大使館のホームページをはじめとする、児童が調べたいと考えていることに関するもの
パンフレット 同上

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

- 1 ユネスコスクールとしての活動をESDで育む資質・能力を育成するための活動と位置付けるとともに、多摩市教育委員会が掲げる「2050年の大人づくり」を念頭におき、「学校の教育目標を達成するための基本方針」等に明記している。
- 2 ESDカレンダーや生活科、総合的な学習の時間等の全体計画や年間指導計画を策定し、全ての教員が必要に応じていつでも閲覧できるようにしてある。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- 1 中・長期的な目標を設定している。現在は、多摩市子どもみらい会議を視野に入れた、児童の資質・能力の向上を目標としている。
- 2 組織的・継続的に取り組むために、その推進役として研究主任を中心とした研究推進委員会を設置している。月1回のペースで研究推進だよりを発行し、進捗状況を共有するとともに記録している。
- 3 年間を通して同じ方に講師を依頼し、一貫性のある指導・助言を受けている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

- 1 学校評価（教職員による自己評価、児童による評価、保護者による評価）をアンケート形式で年度末に実施した。また、指導方法の工夫改善については、校内研究とリンクさせ、校内研究の年度末評価として全ての教員を対象に記述式で評価し、具体的な対応策も検討している。
評価の内容は、指導方法の工夫改善、児童の表現力の向上等である。
- 2 どの評価結果も肯定的な回答が多く、年々その割合も増加している。さらなる充実を目指す。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られ

- 1 活動成果の発信方法・内容
学校・学年だよりや学校ホームページを活用したり、青少協や地域で行われている諸会議に参加したりして、活動成果等を学校から発信している。
- 2 発信により得られた成果
学校の教育活動に理解を深めていただくことができたとともに「協力するよ」という声をいただくことができた。

た効果。(200字程度)

※チェック事項 2-2 に対応

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

- 1 児童のコミュニケーション能力の向上の場（実践の場）として、地域にお住まいの方々にインタビュー等の形でご協力いただいた。相手意識（お話を伺う方の状況に配慮し、声の大きさや話す速度等に留意して取り組むことができた。
- 2 地域学校支援本部の協力を得て、日本語学校に通学している外国人の方々とそれぞれの国や日本の文化について交流を行った。第3学年と第6学年で実施した。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

今年度は、国内外のユネスコスクールとの交流やネットワーク形成を実施しなかった。来年度、実施予定である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）(200字程度)

※チェック事項 2-5 に対応

- 1 児童の表現力の向上が見られた。
年度末に実施している児童対象の学校生活アンケートや保護者対象の教育活動アンケートでも、表現力が向上していると感じているという回答が増加している。
- 2 教員の授業改善に対する意識の向上・視点の焦点化が見られた。
「主体的・対話的で深い学び」の具現化に向けて具体的な取組が見られた。
- 3 地域関係者の学校への理解が深まった。協力関係の強化が見られた。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

1 ねらい

今年度に引き続き、①多面的・総合的に考える力、②コミュニケーションを行う力、③他者と協力する態度を育成することをねらいとする。

2 活動計画

各学年毎に作成したESDカレンダー(年間指導計画)に基づいて、生活科や総合的な学習の時間を中心に教育活動を展開する。

単元は、年度末に本校の児童が参加予定の「多摩市子ども未来会議」につながるものとする。

3 指導上の留意点

保護者や地域在住の学校支援者の協力を得るとともに地域教材の活用を図る。

教員は、どちらかと言えばファシリテーターの役割を担い、児童の主体性や工夫を生かして学習活動を展開する。